

(様式第2号)

島本町スポーツ推進委員協議会 要点録

令和4年10月31日作成

会議の名称	令和4年度第7回島本町スポーツ推進委員協議会			
会議の開催日時	令和4年10月13日(木) 午後7時00分～午後8時10分			
会議の開催場所	島本町役場 地階 第五会議室			
公開の可否	○可・一部不可・不可	傍聴者数	なし	
非公開の理由(非公開(会議の一部非公開を含む。)の場合)				
出席者	委員	亀山 里是 津山 紗江里	田畑 佳苗 柏 凧音	柿本 祥平 奥居 良太
	事務局	安藤 次長	西村 ゆき	
会議の議題				
(案件)	(1) ニューススポーツ体験教室について (2) 町民スポーツ祭について (3) 広報しまもと特集記事について (4) 地域におけるスポーツ振興について (5) その他			
配布資料	別添のとおり			
審議等の内容	別紙要点録のとおり			

令和4年度第7回島本町スポーツ推進委員協議会 要点録

日時：令和4年10月13日(木)

午後7時半より

会場：島本町役場 地階 第五会議室

○会長あいさつ

【案件】

(1) ニュースポーツ体験教室について

・11月20日(日)のニュースポーツ体験教室段取りについて

→荷物の運搬があるため、体育館集合できる人はそちらに集合し、荷物の搬出を行ってから第一小学校にくること。(会長)

→職員は、2人出勤予定である。(事務局)

→参加者促進のため、人数制限は行わない。3コース+練習コースを設定する。1チームに対し、指導及びスコア係として委員が一人ついて回る。(全体)

・12月18日(日)のニュースポーツ体験教室について

→競技は、当初の予定どおり、スリータッチビーチボールを行う。低学年であればルール通り競技を行うことがむずかしいので、参加状況を見た上で、ルールを緩和して行う。(全体)

→「低学年の参加が多い場合は、ルールを優しくしてみんなで楽しく競技を行います。」と、広報等に明記することとする。(事務局)

(2) 町民スポーツ祭について

・10月28日(金)にふれあいセンター第2回実行委員会が開催される。(事務局)

(3) 広報しまもと特集記事について

・11月のニュースポーツ体験教室で全員揃っていれば集合写真を撮影する。(事務局)

(4) 地域におけるスポーツ振興について

・大三小学校PTAよりスポーツ推進委員の派遣依頼が来ている。

→人数が揃うかどうか、相手方が待てるまで調整を行う。(会長)

→最終の回答がいつまで待ってもらえるかお伺いし、連絡する。(事務局)

(5) その他

・令和4年度大阪府スポーツ推進委員研修会資料の配布(事務局)

・金光大阪中学校運動会での生徒会企画の競技にスローイングビンゴが実施された。(委員)

→委員を通じて相談を受け、用具の貸出を行った。ニュースポーツの普及が図れた。(事務局)

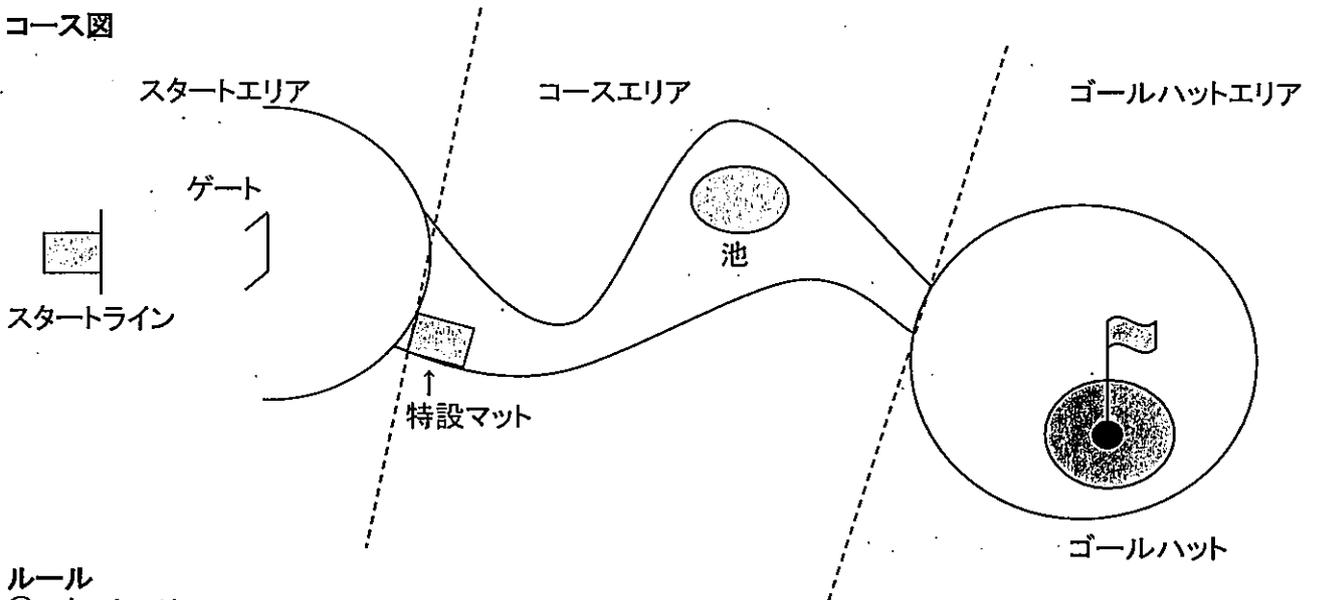
次回開催日 令和4年 11月11日 午後7時半から

1.マウンテングラウンドゴルフ

競技概要

和歌山県美里町発祥のニュースポーツであるゲートゴルフを参考に、島本ルールに変更したスポーツ。ゲートゴルフと異なり、グラウンドゴルフ用のスティックとボールを使用します。スタートラインから1回の打撃でゲートを通させ、コースに沿って打撃を繰り返し、ゴールハットの中にホールインするまでの打数を競うスポーツです。

コース図



ルール

①スタートエリア

- ◎スタートラインから1回の打撃でゲートを通させる(挑戦回数は3回まで)。
真上から見て、ボールがゲートの半分以上通過していれば良い。
- ◎3回失敗した場合は+3打の罰則が適用され、次の打撃は特設マットから行う。

②コースエリア

- ◎ゴールハットに遠い人から順番に打撃を行う。
- ◎ラインを超えるとOBとなる(一度ラインを越えて、コース内に戻ってきた場合もアウト)。
+2打の罰則が適用され、ラインを超えた地点のコース外側から内側へドロップして次の打撃を行う。
ドロップしたボールが池の中やOB区域へ転がって入った場合、ドロップをやり直す(罰はなし)。
- ◎池の上は通過してもよい。
ただし、池の中で止まった場合、+2打の罰則が適用され、次の打撃は池の中のボールが止まっている場所から行う。

③ゴールハットエリア

- ◎スタートしてから、ゴールハット中央のホールへ入るまでの打数を記録する。

④その他

- ◎マークについて…ゴールに向かって、ボールのすぐ後ろ側に置く。
スタートエリア内、ゴールハットエリア内では全てマークを行う。
コースエリア内では2者のボールが、ボール1個分以内の距離の時はマークを行う。
- ◎ラインについて
ライン上はコースエリア内とする。ボールが少しでもラインに触れていればOK。
- ◎ボールの接触について
他人が打ったボールと接触して、ボールが動いた場合、動いた後の位置にするか元の位置へ戻すか選択できる。
他人が打ったボールに接触され、OB区域へ出た場合は元の位置へ戻す。
自分が打ったボールが他人のボールへ接触し、OB区域や池に入った場合は+2打の罰則が適用される。
- ◎スタートエリアの半円ライン、ゴールハットエリアの円ラインを超えてOBとなった場合、ドロップは行わず、ライン上にボールを置いて、次の打撃を行う。
- ◎コースエリア内から打撃したボールが、ゴールハットエリアの円のラインを超えてOBとなった場合はコースエリアとゴールハットエリアの境目のライン上に戻り、次の打撃を行う。

⑤勝敗について

- ◎全ホールの打数の総合計が少ない人が上位。

マウンテングラウンドゴルフの備品

令和2年11月9日

(第2体育室の倉庫の奥にある棚の下段)

マウンテン(赤、白)	各14枚	2-1
ネジ	箱に入っている	
芝	14枚	2-2
スタンド	6台	
スタート用の鳥居	6本	
旗	6枚	
バインダー	4個	
鉛筆	1箱	
ゴルフのマーカ-	20個くらい(缶にある)	
棒	7本	ケースの上に置いている

バンブーの倉庫から借りる備品

ブラシ	数本(5~6本)	(予備用)
スティック・ボール	5本(5球)×2袋	

町体の倉庫から借りる備品(第1倉庫)

スティック・ボール	10本(10球)×3袋	※
ライン引き	青色	
石灰	使いかけ(スコップあり)	
石灰	予備1袋	
折り畳み机	1台	
ペグ	約10本×1袋	←体育協会から借用
棒2本(ひも付き)	円を書くため	
体育館のスペアキー	トイレ使用のため	

※第1体育室倉庫の左奥の中段にある。第2水曜日の午後1時頃に第1体育室倉庫から外の第1倉庫へ移動させ、第3水曜日の午後1時頃に外の第1倉庫から第1体育室倉庫へ戻す

その他、用意するもの

消毒液(参加者用)	教育委員会から借用	
消毒液(備品消毒用)		
ペーパータオル		
マスク	1箱	
検温器	危機管理室から借用	
参加記録票	60枚くらい	氏名・年齢・連絡先等の記載
スコア表	20枚くらい	
ひも		ペグに結びゲートを作る

2022年 10月 吉日

スポーツ推進委員協議会
代表者 様

団体名 島本町立第三小学校
代表者氏名 XXXXXXXXXX

スポーツ推進委員協議会委員の派遣について（依頼）

拝啓 立秋の候、貴協議会におかれましては、ますますご清栄のことと心よりお慶び申し上げます。

平素は、本校PTA活動に、お力添えいただき厚く御礼申し上げます。

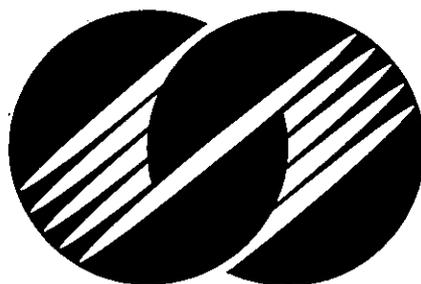
いきいきふれあい教育事業のため、スポーツ推進委員協議会委員の派遣をお願いいたします。

今年度は、下記の日程で開催する運びとなりました。例年よりお願いが遅くなり申し訳ございません。つきましては、ご多用中恐れ入りますが、ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

1. 日時 : 2022年 11月 19日 (土) 13時30分 ~ 15時30分
2. 場所 : 第三小学校 体育館
*他団体との調整によっては変更があることをご了承ください
3. 人数 : 300人
4. 内容 : ペタビンゴ (予定) *ご相談させていただきます
5. 連絡先 : 第三小学校 PTA 副会長
XXXXXXXXXX

令和4年度 大阪府スポーツ推進委員研修会

資 料



日時：令和4年9月10日（土）午後1時30分～
会場：サーティホール（大東市立文化ホール）

目 次

・ 令和4年度 大阪府スポーツ推進委員研修会実施要項	1
・ 研 修 会 次 第	3
・ 令和4年度 大阪府スポーツ推進委員協議会功労者表彰受賞者.....	4
・ 講演会資料.....	5
<講師> 高橋 明 氏	
<内容> 「パラスポーツの魅力と可能性」	
・ 事例発表資料	
■枚方市スポーツ推進委員協議会.....	11
■岸和田市スポーツ推進委員協議会.....	14

令和4年度 大阪府スポーツ推進委員研修会実施要項

- 1 趣 旨 各市町村からスポーツ推進委員の参加を求め、市町村におけるスポーツに関する諸問題について研究協議し、スポーツ推進委員の資質の向上を図る。
- 2 主 催 大阪府教育委員会 公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合
大阪府スポーツ推進委員協議会
- 3 協 力 川村義肢株式会社
- 4 期 日 令和4年9月10日（土）13:30～16:00
- 5 会 場 サーティホール（大東市立文化ホール）
大東市新町13番30号 TEL072-873-0030
JR学研都市線『住道駅』より南東へ約500m
- 6 参加対象 スポーツ推進委員、各市町村教育委員会社会体育担当者

7 研修内容

【講演会】

<講 師①> 高橋 明 氏
NPO法人アダプテッドスポーツ・サポートセンターFounder
大阪体育大学客員教授
シドニーパラリンピック車椅子バスケットボール全日本チーム総監督

<内 容> 「 パラスポーツの魅力と可能性 」

<講 師②> 嗟峨根 望 氏
東京2020パラリンピック シッティングバレーボール男子日本代表
和泉市役所職員

<内 容> 「 僕の宝物 」

<場 所> 大ホール

<参加者> 定員500名
新型コロナウイルス感染症の状況によっては、市町村ごとに参加者数の調整をお願いする場合があります。

7 時 程 12:30 13:30 14:00 14:20 15:50 16:00

受付 【展示見学※】	開会式 表彰式	休憩 【展示 見学】	講演会①②（質疑応答含む）	終了
---------------	------------	------------------	---------------	----

※川村義肢株式会社様より、義肢装具やパラスポーツ関連の展示がございます。
受付または、休憩時間にご覧ください。密を避けるため、できる限り、開会式前
にご覧ください。

- 8 その他
- ・会場に107台分の有料駐車場はございますが、事前に駐車スペースの確保はできませんので、あらかじめご了承ください。できる限り公共交通機関での来場をお願いいたします。
 - ・筆記用具をご持参ください。
- 9 参加申込
- 各市町村スポーツ推進委員(協議)会 会長あて、参加申込書を送付しますので、各市町村分参加者を取りまとめの上、下記あてメールにてご返送ください。

送付先：大阪府教育庁 教育振興室
保健体育課 競技スポーツグループ
大阪府スポーツ推進委員協議会事務局 担当：中田
TEL 06-6944-9366 (ダイヤルイン)
FAX 06-6941-4815
E-mail NakataM@mbx.pref.osaka.lg.jp

研 修 会 次 第

1 開会のことば

2 あいさつ

大阪府スポーツ推進委員協議会会長
大阪府教育庁教育振興室保健体育課長

齊 喜 博 美
染 矢 美 抄

3 来賓紹介

4 講師紹介

5 大阪府スポーツ推進委員協議会功労者表彰

6 ○講演会

<講師①> 高橋 明 氏

NPO法人アダプテッドスポーツ・サポートセンターFounder

大阪体育大学客員教授

シドニーパラリンピック車椅子バスケットボール全日本チーム総監督

<内 容> 「 パラスポーツの魅力と可能性 」

<講師②> 嵯峨根 望 氏

東京2020パラリンピック シットティングバレーボール男子日本代表

和泉市役所職員

<内 容> 「 僕の宝物 」

7 閉会のことば

令和4年度 大阪府スポーツ推進委員協議会功労者表彰受賞者

大阪市	平野 正子	門真市	古川 富雄
大阪市	戸川 こずえ	交野市	平井名 敏子
大阪市	田中 紀子	東大阪市	安井 健治
大阪市	畑 則子	東大阪市	林田 政弘
大阪市	岩崎 義隆	八尾市	牧本 保江
大阪市	大坪 奈穂美	柏原市	池下 定賢
大阪市	吉岡 広	富田林市	興梠 由美子
大阪市	野上 裕志	河内長野市	南 直樹
大阪市	山田 邦義	松原市	吉川 修功
大阪市	田中 禎代	羽曳野市	東原 龍一
大阪市	松本 光司	藤井寺市	高垣 智寛
大阪市	稲田 真砂子	河南町	野村 祐介
豊中市	嶋田 節子	千早赤阪村	尾谷 訓史
能勢町	堀口 良浩	堺市	小田 友重
豊能町	石伏 強	堺市	松岡 圭司
吹田市	細見 尚子	岸和田市	武副 常一
高槻市	久保田 明子	泉南市	秋山 正美
茨木市	上田 常弘	阪南市	小林 三重子
島本町	亀山 里是		以上38名
寝屋川市	田淵 典一		

プロフィール

高橋 明 氏 (たかはし あきら)

非営利活動法人

アダプテッドスポーツ・サポートセンター FOUNDER

大阪体育大学 客員教授



【プロフィール】

シドニーパラリンピック車椅子バスケットボール全日本チーム
総監督。

5回の冬季・夏季パラリンピックに日本選手団の監督やコーチとして参加し、1998年の長野冬季、2000年のシドニー、2004年のアテネ、2008年の北京パラリンピックに於いて、開・閉会式等のNHKテレビ解説者を務める。

ライフワークとして高齢者・障がい者のスポーツ振興と普及活動に情熱を注ぎ、企業や学校、PTA等への講演活動や地域福祉活動に取り組んでいる。

【職経歴】

1951年11月生まれ、大阪市出身。

1974年3月大阪体育大学体育学部卒業、大阪教育大学大学院教育学修士を修得。

1974年4月社会福祉法人大阪市障害者福祉・スポーツ協会に入職、大阪市長居障がい者スポーツセンター・舞洲障がい者スポーツセンター勤務を経て、大阪市障がい者スポーツセンター・スポーツ振興部に38年間勤務、2012年3月に定年退職。

現在、大阪体育大学客員教授、大阪府立大学で非常勤講師を務めながら講演活動を全国で展開。

【著書】

「障害者とスポーツ」 岩波新書 単著

「共に生きる 障害者のスポーツを通して」 文芸社 単著

「パラスポーツ事典」 メイツ出版 監修

共著ほか多数

【テレビ・ラジオ出演】

NHK 総合 「クローズアップ現代」

NHK 総合 「北京パラリンピック名場面集」

NHK 総合 「北京パラリンピック・開会式」

NHK 教育 「限界に挑むアスリート」

NHK 総合 「サキガケ」

NHK 総合 「週刊ニュース深読み」

NHK ラジオ 「バリバラR」

読売TV 「ニュースゼロ」

ラジオ大阪・FMこころ など多数

【実績・受賞】

1992年 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会功労賞受賞

1995年 日本車椅子バスケットボール連盟功労賞受賞

1996年 大阪市市長表彰受賞

2010年 大阪府知事表彰受賞

2011年 大阪市体育協会スポーツ功労賞受賞

2011年 厚生労働大臣表彰受賞



「障害者のスポーツ」から、
「みんなのスポーツ」へ

高橋 明さん
エスピーオーほうじん
(NPO法人アダプテッドスポーツ・サポートセンター理事長)



わたしは、障害者のスポーツにかかわって約40年になります。障害者というと、どうしても障害の部分に目がいき、「できないこと」を考えてしまいがちです。でも、だれにでも身体的な特徴や、得意なことと不得意なことがあるように、障害も特徴や特性、個性だととらえて、「何ができるか」のほうに目を向けてほしいですね。障害者のスポーツを見ると、「だれにでも可能性がある」ことがよくわかります。

障害とは、「目が見えない」「足が動かない」ことだけでなく、見えない、歩けないことから生まれる「不便さ」のこと。不便さはちょっとくふうすると解消できます。たとえば、バレーボールでは中学生用のネットは大人用より低くして、身長が低くても競技しやすくしています。体重別で行われる柔道などもあるように、さまざまなスポーツで体格や体力、年れいや性別、技術などのちがいをカバーしてより多くの人を楽しめるように用具やルールがくふうされてきました。障害者のスポーツも同じです。「障害者スポーツ」という特別なスポーツがあるわけではなく、プレイする上で不便な点を創意工夫によって障害があっても楽しめるようにしているだけです。

まずは、障害者のスポーツを見て下さい。どんな競技でもかまいません。「へ～、こんなこともできるんだ」ときっと気づくはずですよ。また、障害のある人とできるだ

け接してみてください。すると、一口に障害といっても、いろいろちがいがあることがよくわかると思います。そして、「どんなくふうをすれば、いっしょに楽しめるかな」と考えてみる。パラリンピック大会の父といわれるルートヴィヒ・グットマン博士(1899～1980年)は、「失った機能を数えるな。残った機能を最大限に生かそう」と車いすを使っている人を力づけたそうです。思いめぐらす「想像力」と、創りだす「創造力」という「2つのソウゾウカ」を働かせることが大切です。

ところで、「アダプテッドスポーツ」ということばを聞いたことがありますか？

「アダプト(adapt)」は、英語で「適応させる」という意味。子どもやお年寄りのスポーツは、それぞれの体格や体力などが考慮されています。障害があっても活用できる能力を生かしてプレイできるようにくふうしたのが「アダプテッドスポーツ(adapted sports)」です。スポーツ基本法にも障害者のスポーツ参加を推進することが盛りこまれましたが、今後、「障害者のためのスポーツ」が、「障害がある人もいっしょに楽しめるスポーツ」へとどんどん広がっていくことを願っています。

高橋明さんは、1994年リレハンメル(ノルウェー)冬季パラリンピック日本選手団総監督、2000年シドニー(オーストラリア)夏季パラリンピック車いすバスケットボール全日本チーム総監督などを歴任しているんだよ。



1. パラリンピックの起源について

1948年ストックマンデビル大会

創始者 Dr.Guttmann 「失った機能を数えるな、残った機能を最大限に活かせ」

1952年第1回国際ストックマンデビル大会

1960年第9回国際ストックマンデビル大会＝第1回パラリンピック（ローマ）

2. パラリンピックの目的について

パラリンピックムーブメントの推進を通して、インクルーシブな社会を創出する。

価値や意義を通してよりよい社会を作るための認識の変革を起こす活動。

子どもたちへのオリパラ教育もその一つ。

（4つの価値）

勇気＝乗り越えようとする精神力

強い意志＝困難があっても諦めず限界を突破しようとする力

インスピレーション＝人の心を揺さぶり駆り立てる力

公平＝多様性を認め、創意工夫すれば、誰でもが同じスタートラインに立てることを気づかせる力

3. パラリンピックの愛称について

1964年第13回国際ストックマンデビル大会 兼 東京パラリンピック

「対麻痺＝パラプレジア」と「オリンピック」の合成語（造語）「パラリンピック」

1988年ソウルパラリンピックで「パラリンピック」の愛称が名称に代わり復活

「もう一つ（浴う）＝パラレル」と「オリンピック」の合成語「パラリンピック」

1989年に国際パラリンピック委員会（IPC）が創設される。

4. パラリンピックの開催地

1988年のソウルパラリンピックからオリンピックと同一都市で開催

2001年IOCとIPCが契約を結び「2008年のオリンピック開催都市からオリンピック終了後、引き続いてパラリンピックを開催する」ことで合意。

「リハビリ思考を改め、スポーツは、スポーツであり、それは障害者にとっても変わらない」と言う方針を明確に打ち出す。

5. パラリンピックの競技性が高まる

IOCとIPCが共催でパラリンピックを開催することで、より競技性が高まったと同時にメダル争いの激しさに伴い、顕著になったのはドーピング問題。

6. メダルの価値観と補装具等の課題

障害者スポーツは、障害の種類、程度により選手の身体能力に差があるため、公平に競うため「クラス分け」があり、種目が多くなる。例えば、オリンピック陸上競技男子 100m金メダリストは1人だが、パラリンピックはリオ大会では16人の金メダリストが存在する

難民や発展途上国のアスリートは、高価な義足や車いすなどを使えない。補装具等でも差が出る。

(参考) 陸上競技男子 100m世界記録

オリンピック→ボルト=9秒58

パラリンピック→両下腿切断=10秒57、片下腿切断=10秒61

7. 2020 東京パラリンピックに向けて

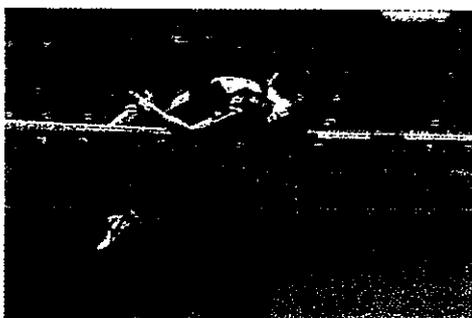
日本では財政支援が年々手厚くなっている。2016年度の補助金は約18億8千万円。この5年で約6倍に増えた。2014年に障害者スポーツの所管官庁が厚生労働省から文部科学省へ、2015年にはスポーツ庁に移ったことも補助金の伸びに繋がった。日本スポーツ振興センターは、選手個人への「アスリート助成」もパラリンピック選手にも適用することを決めた。メダルの獲得が期待される選手が対象で、年間240万円支払われる。

8. 障害者スポーツは、今「パラバブル」

2020年の東京に向け、財政支援が増えることは普及・振興に良いことだが、2020年以降に財政支援が急速に減り、障害者スポーツの発展が足踏みするのではという見方もある。

9. 共生社会（ノーマライゼーション、インクルーシブ）を築くことが大切である

2020年の東京パラリンピックの成功を通して、障害者理解が深まり、誰もがより身近な地域でスポーツが出来る環境づくりが大切である。認識の変革を図る。



片下腿切断「走り高跳び」



「車いすマラソン」

ASI COLUMN

TAKAHASHI AKIRA

特別寄稿

パラスポーツの魅力と可能性

ASSC Founder 大阪府立大学客員教授 高橋 明



「多様性の尊重」と「共生社会の実現」を理念に掲げた2020東京パラリンピックがコロナ禍の中で1年延期になり開催されましたが、開催を機に、我が国の障がい者のスポーツ（パラスポーツ）振興を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。

パラリンピックは、1948年にロンドン郊外のストーク・マンデビル病院で行われた、戦争で負傷した脊髄損傷患者へのリハビリテーションの成果を競うアーチエリート大会が起源だと言われています。それから74年経ち、今ではオリンピック、サッカーワールドカップに続く、世界三大スポーツイベントに成長しています。

この様な流れの中で、パラスポーツは医療スポーツから生涯スポーツ・競技スポーツまで幅広く普及発展してきました。しかし、障がい者への理解とパラスポーツに対する認知度はまだまだ低く、国民への啓発とパラスポーツへの認識の変革を国策として図っていくことも2020東京大会のレガシーであり、オリ・パラ教育につながる大切なパラリンピックムーブメントだと考えています。

私は、48年間にわたってパラスポーツに関ってきました。その中で、障がい者への理解や認識の変革を図るには、「まずパラスポーツを見ることから始まる。」と言い続けてきました。今回の東京パラリンピックは、コロナ禍の中、原則無観客で開催されましたが、テレビ等の実況放送と日本人選手の活躍も相まって、映像を通してパラアスリートの能力と無限の可能性を目の当たりにした多くの人が、大会の盛り上がりを一過性のものにしてはならないと感じたのではないのでしょうか。

パラスポーツの魅力は、「何ができないかではなく、何ができるか」と、残された能力を最大限に活用した生活へのアプローチであり、人間の持つ可能性や共に生きる素晴らしさを気づかせてくれるところにあります。

パラアスリートが障がい(Disability)を克服し、がんばっているという視点の感動だけではなく、パラアスリートの能力(Ability)に目を向け、人間の努力は無限の可能性を秘めているところに感動してほしいと思っています。

「障がい者スポーツ」という特殊なスポーツはない。プレイするうえで不便な点を創意工夫によって補えば、障がいのある人もない人も同じように楽しめる。」という理念のもとにスポーツ指導を続けてきました。

一般にスポーツは、例えばバレーボールは中学生と高校生とではネットの高さが違うように、また、柔道は体重別があるように、形態や体力、技術、年齢、性別等によって用具やルールを工夫しながら行われています。パラスポーツも障がいのためにできないことややってはいけないことに留意し創意工夫すれば、同じようにスポーツが楽しめるのです。

この考え方が少しずつ広がって、かつては「障がい者のためのスポーツ」であったパラスポーツが、「障がいのある人も行えるスポーツ」へとその概念を変えつつ発展しています。

2020東京オリンピック・パラリンピックをきっかけに、その概念がさらに広がって、「障がいのある人もない人も一緒に楽しめるアダプテッドスポーツ」として、当たり前になっていくことを願っています。

ASSCからのお知らせ

障害者とスポーツ 高橋 明 著

マラソン中継で、車椅子を腕でこぐランナーの力強さに驚いたことはないだろうか。もともとリハビリテーションとして始まった障害者のスポーツは、いまやパラリンピックに代表される競技スポーツから、健康維持・生きがいのための生涯スポーツまで多彩な側面をもっている。その魅力から社会的課題まで、指導者歴三〇年の著者が紹介する。



(岩波新書) ¥720+税

枚方市スポーツ推進委員協議会

1. 枚方市の概要

枚方市は、大阪府の北河内地域にある中核市で、西には淀川が流れ、東には緑豊かな生駒山系の山があります。古くから人々が暮らし、平安時代には貴族の遊獵地として知られ、江戸時代には京都と大阪を結ぶ三十石船の中継港としても賑わった宿場町でもあります。近代になると近郊農村から住宅のまちへと徐々に変貌を遂げ、戦後は大規模な住宅団地の開発により人口は急増しました。



昭和 22 年 8 月 1 日、大阪府下 12 番目の市として枚方市が誕生し、当時 4 万人だった人口は現在約 39 万人と、大阪府下で 5 番目の人口規模となりました。東西 12 キロメートル、南北 8.7 キロメートルで、面積は 65.12 平方キロメートルあります。

市の中央部を国道 1 号が縦断し、市の西部を京阪電車が、東部を JR 学研都市線が走っています。大阪市内や京都市内へも電車で 30 分以内、東部には第二京阪道路が走るなどアクセスの良さも魅力の一つです。

枚方が発祥の TSUTAYA や蔦屋書店を中心とした商業施設「枚方 T-SITE」や、大阪府下で有数の規模を誇るショッピングモール「くずはモール」などの大型商業施設を有し、100 年以上の歴史を持つ関西屈指の遊園地「ひらかたパーク」など、自然や歴史以外にも様々な魅力を併せ持つまちです。

2. 枚方市のスポーツを取り巻く環境

枚方市には、バスケットボールコート 3 面分の広さのメインアリーナを有する「KTM 河本工業総合体育館（枚方市立総合体育館）」や、府下でも数少ない第 3 種公認競技場の「たまゆら陸上競技場（枚方市立陸上競技場）」、弓道やアーチェリーに使用できるスカイアリーナが特徴の一つでもある「枚方市立渚市民体育館」、ナイター設備のあるテニスコートが特に人気の伊加賀スポーツセンター、硬式野球もできる本格的な野球場「ひらかた東部スタジアム」など、多様なスポーツ施設があります。

また、以下の 2 チームと、枚方市のスポーツ振興などを目的とした連携協定を結んでいます。

パナソニック パンサーズ

枚方市にあるパナソニックアリーナを本拠地とし、日本最高峰のVプレミアムリーグで戦っている男子バレーボールチーム。

天皇杯・Vプレミアムリーグ・黒鷲旗の3大タイトルの制覇（3冠）を3度も達成するという偉業を成し遂げた唯一のチームで、今後も活躍が期待されています。

エースとして絶大な人気を誇る清水邦弘さんや山内晶大さんなど、数多くの日本代表経験者が所属しています。

FC ティアモ枚方

2004年に、元Jリーガーで市PR大使でもある新井場徹さんらが創設したサッカーチーム。「枚方・寝屋川・交野を中心とした北河内地域からJリーグへ」を理念に掲げたまゆら陸上競技場をホームスタジアムとして活動しています。

元Jリーガーの小川佳純監督をはじめ、元日本代表の二川孝広選手など多くのJリーグ経験者を有する注目のチーム。2020年にはアマチュアリーグ最高峰のJFL昇格を果たしています。2022年のチームスローガンは「大冒険」。

平成28年度に行った「枚方市運動やスポーツに関するアンケート調査」では、スポーツに関する関心度は、世代に関係なく6割を超え高い傾向にあります。しかし、スポーツを週に1日以上行う割合は、30～50歳代では3割程度、「全くしていない」の割合が4割前後を占め、子育て世代や勤労世代のスポーツ実施率が低い状況です。

そういった状況も踏まえ、枚方市では「だれもが生涯にわたってスポーツに親しみ、スポーツを通じて健康を増進し、人と人との交流を深めることを支える」を基本理念とした「枚方市スポーツ推進計画」を平成29年3月に策定し、スポーツ振興に努めています。

3. 枚方市スポーツ推進委員協議会

「枚方市スポーツ推進計画」の中で、特に「地域スポーツの充実」の面で重要な役割を担うのが枚方市スポーツ推進委員です。枚方市スポーツ推進委員は令和4年8月1日現在47名で活動しており、その多くは、校区コミュニティから推薦されています。それぞれが、各地域で活動しているほか、協議会を組織して、市内の広域的な活動にも取り組んでいます。

協議会の中には「事業委員会」「研修委員会」「広報・交流委員会」の3つの委員会があり、推進委員はいずれかの委員会に属して活動を行います。事業委員会は、協議会の主催イベントの企画や運営を主に担当し、研修委員会は、定例会議後に行う実技研修の内容を調整します。広報・交流委員会は推進委員の活動を市HPやSNSで発信するための内容調整や、委員同士の交流のための企画を行います。

毎年行っている協議会主催のイベントとしては、ライフスポーツ財団の助成を受けて、「ライフ・チャレンジ・ザ・ウォーク」と「親子グラウンド・ゴルフ大会」をそれぞれ年1

再開催しています。新型コロナウイルス感染症の影響により中止せざるを得ない年もありましたが、令和3年度は感染対策を施しながら「ライフ・チャレンジ・ザ・ウォーク」のみ開催しました。

具体的な対策としては、受付の時間帯をグループごとに分け、かつ当日の受付場所も4か所に増設。コースも右回りと左回りを交互に案内することで密を避けました。参加者及びスタッフに健康チェックシートを提出することを必須としたほか、コース上のミニゲームコーナーでは手指消毒を設置（アルコール消毒が苦手な方にはビニール手袋も用意）。コース説明など参加者と特に距離が近くなるスタッフは、マスク以外にフェイスシールドも装着するなど、参加者の皆さんも、スタッフも安心して楽しめるような運営を行いました。

参加者のアンケートでは「楽しかった」「また参加したい」と好評を得たほか、当日はライフスポーツ財団の方が視察に来られ、「スタッフの方から参加者の皆さんに明るい声掛けがされ、温かい雰囲気を作られている。参考事例としたい」といった評価もいただきました。

このイベントは、親子など小学生以下の子どもと18歳以上の成人のグループを対象としています。そのため、前述のアンケートにてスポーツの実施率の低い傾向が判明している子育て世代や勤労世代の参加を促し、体を動かすきっかけ作りの一助を担っていると考えています。

こうした協議会の主催イベントのほかに、市が実施するイベントや、「新春走ろうかい」といった枚方市スポーツ協会のイベントにも、毎年スタッフとして協力しています。また、地域でニュースポーツに親しんでいただくため、協議会で購入したニュースポーツ備品の貸し出しも行い、地域スポーツの充実に努めています。

4. 今後の課題

令和4年8月1日現在の枚方市スポーツ推進委員の構成は、以下のとおりです。

(単位：人)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
男性	0	0	1	8	13	10	10	42
女性	1	0	0	1	0	2	1	5

勤労世代や子育て世代をはじめ、普段スポーツに触れていない人がスポーツに親しむ機会を作るためには、同世代の視点も積極的に取り入れていく必要があります。各推進委員が、地域での活動を通じて、地域の実情に応じたニーズを把握していくとともに、スポーツ推進委員自体の知名度の向上を図り、幅広く担い手を確保していく必要があると考えます。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により様々な活動が制限されていた期間があり、委嘱年数が比較的浅い推進委員については、地域での具体的な活動を十分に行えていない、または取り組み方が分からない場合もあるため、推進委員同士の情報交換が積極的に行えるような場の設定も検討していきます。

岸和田市スポーツ推進委員協議会

1. 岸和田市の沿革

古くからこの一帯は「岸」と呼ばれていた。南北朝時代、楠木正成が摂津、河内、和泉の3カ国の守護職に任ぜられたとき、その一族の和田高家をこの地の代官に任命し、初めて城を築いたといわれている。当時、吉野（奈良）の和田氏を「上の和田」、当地の和田氏を「岸の和田」と呼ぶようになり、地名まで「岸和田」と称するようになったと伝えられている。

その後、明治4年に藩を廃し岸和田県が置かれ、明治22年に町村制がしかれて岸和田町、岸和田村、岸和田浜町、沼野村ができ、明治45年これらが合併し岸和田町となった。

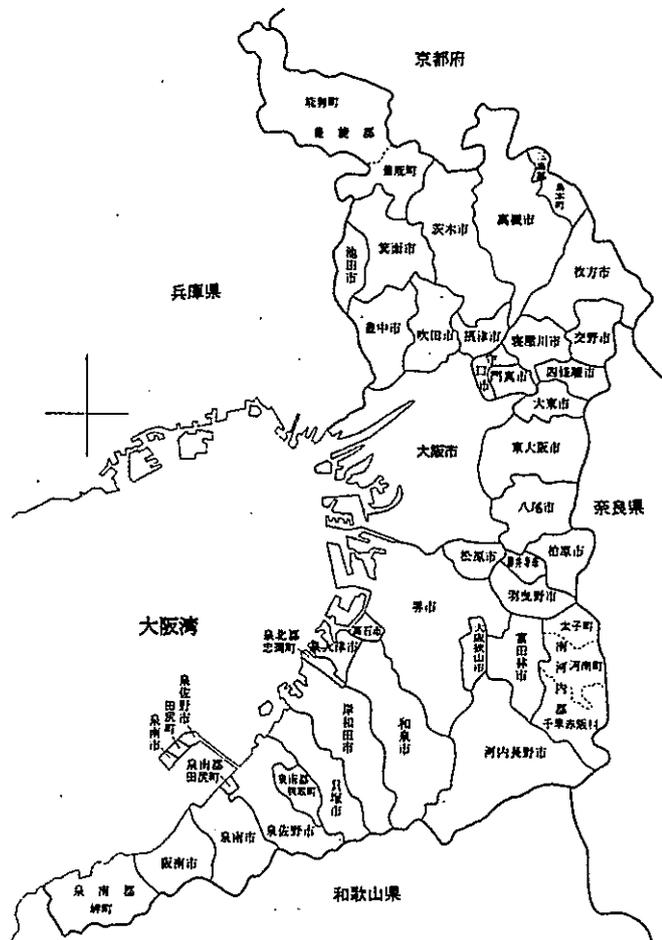
大正11年11月市制を大阪市、堺市に次ぐ府内3番目に施行し、「岸和田市」が誕生した。その後、合併編入、埋め立てにより今日に至っている。その後、平成14年4月、特例市に移行し、平成27年4月、特例市制度の廃止により、施行時特例市に指定された。

2. 市の位置

大阪府の南部、和泉平野のほぼ中央に位置する。海から山にかけて長い市域形状になっている。地形は、北から臨海部、平野部、丘陵部、山地部に区分され臨海部は工業地域、平野部は住宅と商業地域の混合地域、丘陵部は農業地域と工業地域、山地部は森林地域として主に利用している。西は大阪湾に面し、東は葛城山で和歌山県に接しており、北東は忠岡町と和泉市、南西は貝塚市と隣接している。気候は温暖で、雨が少ない。

3. 人口（令和4年7月現在）

人口（人）	189,878
男性（人）	91,050
女性（人）	98,828
世帯数（世帯）	89,033



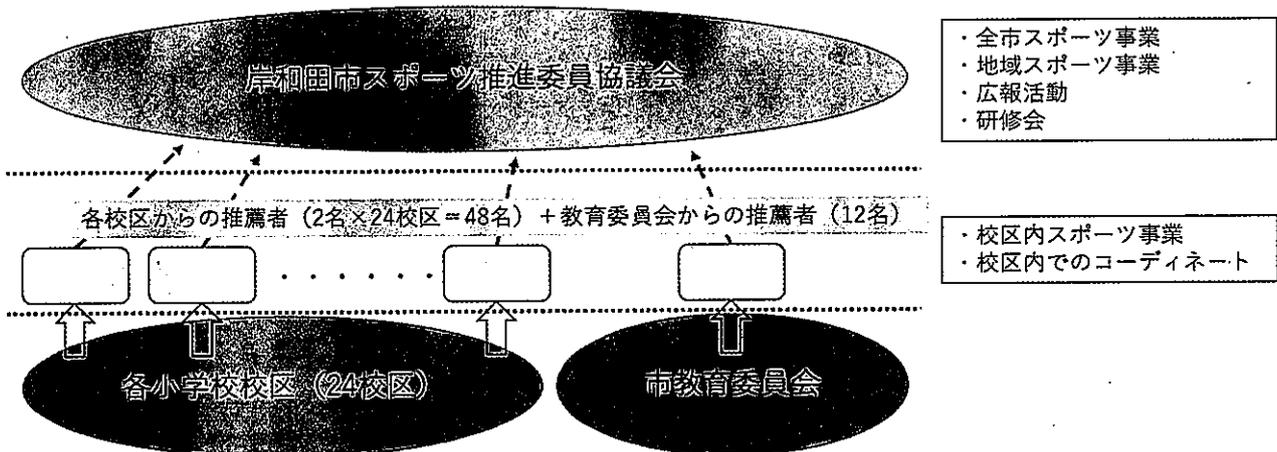
4. 都市の特色

都市宣言	交通安全都市宣言	昭和 37 年 2 月 13 日
	人権擁護都市宣言	昭和 50 年 12 月 9 日
	障害者福祉都市宣言	昭和 56 年 6 月 18 日
	核兵器廃絶・平和都市宣言	昭和 58 年 3 月 14 日
	暴力排除都市宣言	平成 6 年 3 月 24 日
市の木	クスノキ	昭和 43 年 11 月 1 日
市の花	ばら	昭和 57 年 11 月 1 日
名産・特産品	桐たんす、顕微鏡レンズ、むらさめ（和菓子）、水なす、春菊、もも、たけのこ、人参（彩誉）、しらす、地酒	

5. 生涯スポーツ活動への取り組み

■活動基盤

各小学校区、教育委員会から推薦されて、スポーツ推進委員として岸和田市から委嘱されています。



■岸和田市スポーツ推進委員協議会の人員構成（令和4年4月1日現在）

定数	現在	男性	女性
60名	60名	50名	10名

委嘱年数	人数
～2年	12
2年以上6年未満	14
6年以上10年未満	11
10年以上20年未満	13
20年以上30年未満	8
30年以上	2

■事業内容

◆校区内スポーツ事業

校区より推薦され委嘱されたスポーツ推進委員は、校区内で行われる対抗運動会や、校区内での課題となっている事象に対する事業の開催、ニュースポーツ・障害者スポーツ体験会を企画、調整して実施しています。

◆地域スポーツ事業

岸和田市では、市域を4分割して4つのブロック活動を行っています。このブロック活動では、そのブロックに所属しているスポーツ推進委員が主体的に実施内容を企画・調整し、開催しています。また、近隣大学と連携した形での開催もしています。

・これまでの主な開催事業

事業名	備考
グラウンドゴルフ体験会	
ポッチャ体験会	
レクレーションスポーツ体験会	
BMX体験会	
Gボール体験会	大学連携事業

◆全市スポーツ事業

全市域にまたがる事業として下表の事業があり、それらの事業に企画・運営等を行うことにより市民のスポーツ推進に寄与しています。

・全市域にまたがる主な事業

事業名	内容	企画形態
市民スポーツカーニバル	小学校区対抗運動会	企画・運営
ファミリー登山	登山	企画・運営
ライフ・チャレンジ・ザ・ウォーク	ウォークラリー	企画・運営
ニュースポーツフェス	ニュースポーツ体験	企画・運営
全国小学生スポーツクライミング大会	クライミング大会	協力

◆広報活動

協議会内に、広報委員会を設置し、広報紙を発刊しています。また、市民スポーツカーニバルに合わせて特別号を作成し、全戸回覧を行い、スポーツ推進委員の活動の周知に努めています。

◆研修会

協議会では、スポーツ推進委員の全国大会、近畿大会、府研修会、泉南地区研修会へ参加しています。また、協議会内で独自の研修会を開催し、スポーツ推進委員としての資質向上に努めています。

・主な研修会（一例。年度により実施内容は異なる）

研修会名	目的
スポーツ研修会	今後、協議会で推進していくスポーツや、話題のスポーツについて研修を行い、今後の事業展開に繋げています。
熱中症アドバイザー養成講座	熱中症に関する理解を深め、熱中症啓発を行う。
救命救急講習会	救命救急法を学び、有事の際に対応できる能力を身に着けます。

◆市民スポーツカーニバル

市民スポーツカーニバル（以下、カーニバル）は、11月3日の文化の日に開催され、全市域を対象とした生涯スポーツの祭典です。このカーニバルは、市内にある全24の小学校校区単位をチームとして、リレーや綱引き等の競技を実施し、順位を決めています。これらの校区対抗種目は、種目ごとに、参加者の年齢等を決めており、老若男女が参加する市をあげたイベントです。年々、少なくなってきたと言われている、異世代・多年代の方が一堂に集結する近年では珍しいイベントでもあります。

本協議会では、主管として、事前準備や当日の運営等開催に係る事務作業等を市と協力しながら行っています。



5. 今後の課題

日頃の活動の成果により、イベント開催時には、多くの方に参加して頂けている。一方で、参加者の固定化が進んでおり、今後は、スポーツに関心のない層へのアプローチを検討する必要があります。

また、スポーツ推進委員についても全市事業や定例会に全員が参加できておらず課題が残っています。今後のスポーツ推進委員の在り方についても、教育委員会と共に検討していく必要があります。

さらに、少ない活動予算の中で、市民のスポーツニーズに合わせた活動を行う必要や、どのようにして、広報活動及び新たな参加者を獲得していくか、スポーツ推進委員自身が自分事として考え、取り組んでいく必要があります。

わたしたちは
人生を毎日楽しんで
いただけるよう
3Life を
サポートいたします

KAWAMURA

Life ① 生命

「痛い」「熱い」など、生物としての感知レベルでの場合

お客様ひとりひとりの身体の形・機能に合った製品を心にかけて
着たい作り、お渡ししています。

Life ② 生活

「食事」「睡眠」「移動」など、人間としての日常生活レベルでの場合

さまざまな提案をすることにより、生活シーンごとにも生じる問題を
解決し、より快適な暮らしが出来るようお手伝いをしています。

Life ③ 人生

「就職」「社会的活動」「レジャー」など、個人としての自己実現レベルでの場合

仕事や趣味、スポーツなど色々なことにトライし、自分らしさを求める
お客様を大切にサポートしたい気持ちでサポートしています。

K 川村義技株式会社

TEL.072-875-8020

<http://www.kawamura-gjshi.co.jp>

川村義技 検索



P パシフィックサプライ株式会社

TEL.072-875-8008

<https://www.p-supply.co.jp>

パシフィックサプライ 検索



令和4年度第6回島本町スポーツ推進委員協議会 要点録

日時：令和4年9月8日(木)

午後7時より

会場：島本町役場 地階 第五会議室

○会長あいさつ

【案件】

(1) ニューススポーツ体験教室について

- ・9月18日(日)のニューススポーツ体験教室の出席委員を確認する(会長)
→全員出席予定
- ・QRコードからのインターネットによる事前申し込みの状況はどうなっているか(会長)
→現在2人から申し込みがある。これまでは事前申し込みが不要で、今回も当日参加を可能としているので、当日になって何人かは参加があるものと思われる。更なる周知の検討が必要と考えている(事務局)
- ・広報などでの呼びかけ方も更なる工夫が必要ではないか。「ニューススポーツ体験教室」「スローイングビンゴ」と書いてあっても、知らないのでは内容が分からず、参加に繋がらないのではないか。(委員)
→これまでは、同様のやり方で20人～30人の参加があった。今回は初めてのやり方であるため、当日になってみないと分からない。参加対象者は小学生以上であれば大人も子どもも親子でも参加できるため、参加者を狭めない表現で、分かりやすく、キャッチーな表現がないか考えて行きたい。(会長)
- ・11月のニューススポーツ体験教室は、予定通りマウンテングランドゴルフを行う。10月は町民スポーツ祭があるため、ニューススポーツ体験教室は実施しない。(会長)
→12月はスリータッチビーチボール、1月はスリータッチボールの予定で話は進んでいるが、変更なしで良いか。(事務局)
→スリータッチボールは高学年以上でないと難しい競技なので、それまでの参加者層を見て、決めていけばいいのではないか。(委員)
→12月以降は、今後話し合っって競技を定めていくこととする。(会長)
- ・スポーツ推進委員の募集について、ニューススポーツ体験教室に参加された大人に配布する用のチラシを作成した。内容について確認願う。チラシにも記載しているが、10月は公募委員を再募集する予定であるため、その間に申し込まれた方は、公募委員として扱い、公募委員選考委員会での選考となる。(事務局)

(2) 町民スポーツ祭について

- ・9月16日(金)に第2回実行委員会が開催される。事務局担当者は都合がつかず出席しない。実行委員会にも報告済み。(事務局)

(3) 広報しまもと特集記事について

- ・今回特に決めなければいけないことはないが、集合写真のポージングや見出しにするコピーなど、引き続き各委員でアイデア練っておいてもらいたい。(事務局)
→何月号広報に載るのか。(委員)
→年内ぐらいで、政策企画課から照会が来る。4月号は毎年施政方針の特集となるのでそれ以降であることは間違いない。あまり早いタイミングで特集したいとは考えていない。(事務局)

(4) 地域におけるスポーツ振興について

- ・バンブークラブが後期のチラシを配布された。スポーツ推進委員の活動とは直接関係ないが市町村によっては、スポーツ推進委員協議会と総合型地域スポーツクラブ(バンブークラブ)は活動に関わりがるところもある。(事務局)

(5) その他

- ・「部活動の地域移行」「勝利至上主義からの脱却」について、簡単に話題提供(事務局)

次回開催日 令和4年 10月13日 午後7時から